第三章 第三師団作戦要綱概要

師団ハ昭和十六年十二月大東亜戦争勃発第一段階ノ基地トシテ比島作戦ニ参加シ「マニラ」ノ陥落後多島海方面作戦ノ為蘭印ニ転進ス命ゼラレテ「ジャワ」島ニ上陸シ爾後蘭印方面作戦ノ主力ヲ以テ第二段階ニ於ケル蘭印攻略ノ為ノ作戦指導ニ方針ヲ堅持シ地上作戦協力ニ於テハ航空兵団ノ作戦ニ基ク間接的協力ヲ主体トシ間接的協力ヲ実施セザルニアラズ

即チ作戦ノ経過ヲ概ネ次ノ如シ

八月下旬迄作戦ニ於テハ右方針

所期目的ヲ達成シ

二伯ノ秘ヲ各敵ヲ撃滅シ

第一節　航空要塞秋

第一款　一般指導方針

航空要塞秋指導ノ方針ハ敵ノ攻撃ノ基礎ヲ其ノ基地空地ニ於テ破砕スルニ在リ

而シテ昭和十七年作戦開始当初ニ於テハ敵空軍基地ヲ攻撃スル能力ハ皆無ニ在リ

在セン関係上我陸軍ハ合ノ部隊ヲ以テ遮断之ヲ在倒ス可ク敵ノ動ヲ有シタリ

リトス昭和十七年及以降敵空軍細部ニ亡ク遠ク印度及西南支那方面ヘ退避シ後方ニ於テ整備シ逐次第一線ニ補給セラルルニ至リテヨリハ右ノ如キ要塞固撃トナリ可能限ノ隠蔽ト

柳井作戦ニ初ノ下ニ第一線ヲ地行場

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

集結ノ好機ヲ捕捉シ敵陣理合ノ部隊ヲ統合進攻セシメラレ敵果ノ獲得ニ努メムルニ至レリ

而シテ要塞攻撃ノ要領ニ基テハ攻重点ノ位置ニ徴シ主作戦ノ進捗ニ伴ヒ逐次ノ攻撃ヲ行フベキ

商勢的ニ

実施ノ結果ニ鑑ミ

敵我ヲ殺ニ指向セサルヲ得サリシ実情ニ至リキ

ヲ企図トシ

ハ飽ク迄陣地戦ニ指向

セラレタリ

昭和十年初頭茶陵ヲ

秋ノ進撃ノ目標トシテ四望山ヲ攻撃

ノ所在ニ即カセシコトアリ

又秋季ニ於テ陽同敵ヲ主体トセルモ敵ヲ殺ノ為カ上ニ陽ノ陽的

遮攻或ハ敵ヲ陽知的ノ進攻ニ移リ

陸軍

敵軍機ヲ主目標トセル攻撃ニ於テハ後者ノ主トシテ採用スルニ至レリ

昭和十七年十月両軍昭和後敵ノ来襲目

敵逐撃ノ狀況ニ至レル師団トシテハ

直接企図ヲ能ク達成

遂ニ依ル敵軍ノ撃滅ヲ図リ直接ノ

助トシテ作戦ヲ採用ス

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第二款 昭和十七年春末ニ到ル作戦

本戦ニ於ケル航空要域奪取ノ指導ヲ速カニ

在緬英米空軍ヲ徹底的ニ撃滅シ第

十五軍ノ緬甸攻略作戦ニ協力ニ来

寄與スル

大本営ノ意図ヲ第ニ如ク企図セラレタリ

昭和十七年

即チ 月十五日 印度司令部 印度国民軍

中将小畑英良 参謀長陸軍佐藤石一

台湾ヲ本拠トシ印度ニ移駐スルヤ

直チニ第四、第十 飛行団ノ戦闘連合

部隊ヲ以テ「ラングーン」「コルカタ」「コロンボ」

ノ飛行場ヲ攻撃シ敵ニモ我ニ尽ク間攻撃

ノ為比較的指揮官多ク過快尽ク間戦ヲ

敢ヲ以テ又空中戦ヲ夜間ノ隙(暗ル)ニ

隙ヲ以テ夜間攻撃ニ移行スルノ戦法ヲ採

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

同二月中旬（三日書）「ミンダーン」占領後一時
指呼ノ間ニ迫ル敵空軍ノ「マクタエ」爆撃ヲ受ケタル後三月二十日
アルヲ発見後三月二十日総攻撃実施迄
全戦闘期間ヲ通ジ如何ニ我ヒテ他方面ノ援軍
或ハ地上作戦協力ニ任ジツツ放置ス
三月末ニ第七、第十二飛行団ノ指揮下
二入リ一十日ノ全部カラ兵ヲ分ケテ故ノ編
制内ニ大根拠地「マクタエ」ヲ為ス
ニ一部行動ニ一部ヲモ要サヤン合ハ
ノ要域我ノ実施シ爾後第十五軍
ノ作戦ニ至ル大ノ五ヲ獲ヲ為ス
布陣配置ノ如

第三款　第十五軍ノ緬甸戡定作戦間

本時期ニ於ケル航空要塞戦ハ「マクエ」ニ於テ
堡塁撃破セル外、航空兵義勇隊ノ「ラングオン」
空襲ヲ契機、英空軍ノ「ハルハ」、「アキヤブ」ニ対スル
セル「ゲリラ」的出動ニ対スル防空ニシテ
大ナル作戦ノ発達ヲ生ジタルモノ
五月末以降十月中旬ニ至ル間緬甸地方ノ
雨季到来ト共ニ部隊ノ座カラ雨季中
島ニ後退セシメ教育ノ訓練ニ
当ラシムト共ニ部隊ノ他方面転用
ヲ命ゼラレタリ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第四款 昭和十七年両季明ケ後ニ於ケル
作戦

昭和十七年度末マデニ於テ徹底的打撃ヲ
蒙ル敵英米空軍ハ西南支那方面ニ於テハ
雲南駐屯部隊甲度方面ニ於テハ「アキャブ」「パレル」
「インパール」方面ニ於テ今暫ラク兵力ヲ集中シアリシモ
保チ
爾後ハ引ク補給益ニ困難ニ陥リ
秋進撃ノ進捗ト共ニ其ノ勢力逐次恢復
セラレ
本格的進攻ヲ企図シト雖モ其ノ準備
ヲ第二期ニ於テ終スルニ伴フ
敵ハ爾後ノ作戦
困難トナルベキヲ予期シ
雲南方面ニ於テ次期作戦準備ニ
進セレメタル各部隊ヲ以テ第一期生ヲ西南
支那方面ノ敵ニ対シ
作戦ニ
訓練ニ
支那方面ノ在支米空軍ヲ別集中
撃破シ
チヤンシ
ニ
方面ノ敵

陸軍

宮勢力ノ更張ヲ敢行スルト共ニ東部戸
先制
十月
度ニ於テハ飛空最大ノ根据地タル「カムチャツカ」ノ
初空襲ヲ以テ之ヲ撃滅シ初戦ノ方針実現ニ
勉メタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第五款 昭和十八年一月及其ノ以後ノ作戦

本期ニ於ケル航空軍隊作戦モ緬甸周辺地区ニ現出スル敵機ヲ好機ノ捕捉シ撃滅スル方針ノ下ニ指導セラレタリ

緬甸方面ニ於ケル初給源遮断ノ攻撃ハ成功ノ余ヲ以テ敵ノ基地ニ対シ反復攻撃ヲ加ヘタリ

昭和十七年十二月コアキヤブ方面ニ於ケル

要ニ引続キマニラ攻略及蘭印攻略ノ為第十五方面軍

職務上レリ

ノ及要作戦ノ実施アリ飛行要塞及地

上作戦協力トノ命令ニ基ク

微妙ヲ要シ

軍容一体的活動ノ如ク殺傷スベキ敵

ハ至レリ

師団ハ此地指導方針ノ下機ニ投シ直ク

常ニ敵ニ或ハ要害ニ敵ノ要害

陸軍

1042

シ或ハ夜襲ヲ部隊ニ対シ多クノ「エニー」等ノ敵ノ要塞シ者ニシテ「ア」方面ニ敵ヲ奇襲スル等東奔西走ノ大活躍ヲ現出セリ

又本期ニ於ケル航空要塞敵ニ於テハ蒲印緬甸北部ヲ通過スル援蒋航空路ノ発展ニ対シ本邦屋ヲ中継基地ノ「ラングーン」ヲ爆撃シ或ハ「ニューヨーク」

二戦斗隊ノ一部ヲ潜伏セシメテ途上ニ立ち遮

要ヲ第一ノ目的トシ殊ニ大ノ成果ヲ収メタリ

本期航空要塞敵ノ空襲ハ二方ニ亡ル敵空軍ノ反撃亦大ナリシ関係上飛行場撃滅及敵ノ比較的国難ナル東印帰隊ハ再来ハ

ハンコックス等敵攻撃威力圏外ヨリ夕刻

細甸印ニ進出シメ攻撃終ア後軍カニ帰ル

翌日

基地ヘ後退セシムル例トスル三至リ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三節　地上作戦協力

師団ハ緬甸方面作戦飛行部隊ト密接ニ

与前節記述ノ如キ一般作戦指導方針

ヲ航空要域殺ニ指向シ之モ第十五軍ノ後ニ

第十五方面軍ノ地上作戦ニ力ヲ入レ

協力スル如キ態勢トス

第一款　緬印国境突破ヨリ「ラングーン」攻略

昭和十七年一月中旬第十五軍ノ移駐南部

緬印国境ヲ突破シ「ラングーン」及「モールメイン」作戦

間船舶セラルルヤ師団ハ転進直後在緬英

半宮軍ニ対スル航空要域殺ヲ続行シツツ

戦場上空ノ制空或ハ敵地上部隊ノ攻撃等

直接協力ニ任ジタルモ航空要域殺続行ノ為ノ兵

力及航空基地設定等ノ為配不「シツタル」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一方ノ線迄ハ十分ニ防禦能勢ヲ具現シ得ズ而後戦線ノ進出並ニ要図戦ノ成果顕ク現レ而後ニ至リ漸ク攻略ニ力リテハ比較的取扱ヒ易カラシムルヲ得タリ

第款 緬甸戦役作戦

昭和十七年三月末ヨリ翌年三月末ニ至ル

本期ニ於ケル飛行要図戦ノ成果概ネ完全ナリシト認ム特ニ指揮ヲシテ遺憾ナカラシメタル点ハ同ノ作戦ヲ遂行シ得特ニ「トンガー」ヨリ中ビルマ及ビ高原地帯ニ近ヒタル第五十六師団ニ於ケル其ノ前進ノ二ヲテ迅速ナラシメ在緬英軍ヲシテ支那側ノ国ヲ為サシムルト共ニ「ラウエ」ノ危機ニ陥ヒ北上英軍ヲ追撃セル第三十三師団ニ対シ

~~3 紀元 十九 分以降~~ 訂正

モ徹底的ナル戦果ヲ挙ゲルノ機会ヲ与ヘタリ

第三款 アキャブ方面及要作戦

昭和十七年西暦明ケ後英印軍ノ海岸方面ヲ反攻シ一旦ニ二イリテハ拍駆スル敵空軍ノ撃滅ニ努力ヲ傾シ少後方基地ヲ確保シ引キ続キ附近ノ命令第一線部隊ノ秋ヲ二十三日接収ニ協力ス

第四款 北緬及要作戦

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三節　航空作戦ト地上作戦協力ト関係

作戦指導ニ当リ師団ハ航空事務ヲ主体トセシモ所要ノ時機所望ノ勢所ニ其ノ保有戦力ヲ増強セリ第十五軍ノ後ニ第十五方面軍ノ作戦ヲ容易ナラシムル為メタリ即チ昭和十七年十月乃至三月ノ間ニ於テハ主ニ西北方面ニ於ケル英米空軍ヲ撃滅シ其ノ戦果ヲ以テ地上作戦ヲ容易ナラシムル如ク指導セラレ（同軍）三月二十日コヒマ攻略ノ完勝ニ依リ爾後ノ地上軍戦況作戦ヲ容易ナラシメタリ

爾後英米空軍ノ緬甸ヨリ退陣スルヤ師団ハ在東部印度及西南支那英米空軍ヲ撃破シツツ第十五方面軍ノ緬甸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

内務省警保局及軍令部ノ協議ニ依リ作戦ニ密接ナル企図ノ下ニ作戦ヲ指導セラレタリ

昭和十七年十月緬甸ノ面目明ケ後ニ於テハ敵英米空軍ノ指嗾猛烈ニ加フルニ

ニシテ事変日ニ日ニ甚ノ数ヲ加ヘシ

遂ニ敵機襲ノ企図ヲ現ハシ我ハ各カラ他方面ニ転用セシメラレ右企図達成ノ為ニハ第一段ノ程ノ平穏ヲ必要トシテ達成ニ得サルニ至レリ之カ為ニ アキカン反転作戦時ニ於テハ第四飛行団ヲ以テ地上作戦協力部隊ト指定シ該方面地上各団ト第四十軍司令部運輸軍ノ下ニ作戦ヲ遂行セシムル好機部隊ノ全一部ノ下第七飛行団ト協同シテ南印地区ノ敵根拠地ニ対シ

又昭和十七年両要明ケ後敵機ノ来襲

陸軍

敵撃ト雖モ我カ補給線ノ確保及国
難トナルヤ保ス方面軍ト共ニ安全ナル協同ノ
下防衛ニ任セリ
地上作戦ハ力ニ方リ空地両部隊間
時ニシテ意思ノ相違ナキニシテモアラサリシモ
地上軍ノ理解アル能ク度々作戦指導上
幸ヒセントスロ比較的

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第四節　島嶼作戦

帝国ハ進攻作戦ニ依リ敵航空勢力ヲ撃滅スルヲ本旨トセルモ緬甸ヨリ撤退セル敵空軍ハ後方ニ於テ態勢ヲ整備シ前方ニ対シテ作戦スルト共ニ核種性能ノ向上ト共ニ基地ヲ志向シ攻勢ヲ強化シ我カ領空ニ侵入シ来リシヲ以テ我カ要域ノ敵航空勢力ハ増加シ敵ハ我カ要域ノ敵ニ対シ島嶼作戦ニ伴ハサルニ至レリ之カ為島嶼作戦的見地ニ由リ本年昭和十七年西暦ニ於ル明ケト共ニ敵ハ航空機ノ増加ヤ飛行場ノ拡充ヲ図リ我カ要域ノ敵ハ空ニ於テ敵ヲ島嶼ニ誘出スルト共ニ絶対ニ島嶼要作戦ト称シ得サルモ地上軍戦闘上空ニ於ケル制空戦ヲ併セ実施シ要域ノ

陸軍

果ノ増大ヲ図レリ

即チ昭和十七年十月乃至十月ノ間ニ於テハ

在ハイミヲラシ第十二市行田ヲ以テ「ニューブリテン」

（含マズ）以北、在トンガー、第四飛行団ヲ以テ同島

（含ム）以南ニ来襲スル敵機ヲホメテ邀撃ス

ルト共ニ命令ニ依リ本邀撃方ヲモ使

ヘキヲ命ジタリ

故作戦当初ニ於テハ未サザルベキヲ考慮セザ

レタリ如上ノ邀撃作戦ハ情報隊ノ視察

及其ノ事態等ノ関係上十分ナル成果ヲ収メ

得ザリシ次テ以後ハ「ラバウル」要地ノ要塞

防空戦ヲ除ク他時指令スル外基地飛

行場ノ防空ハ夫々所在戦斗隊ヲ以テ実施

セシムルコトトセリ。此ノ際ニ於テハ電波探

知機甲ノ配置及同機ノ取扱ハ適切

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

尤配置ニ伺イ及其事前発見ヲ可能ナラシメ爆撃ノ成果向上セリ

又爆撃作戦ニ於テハ戦斗隊空中勤務者ノ高気候隊ノ選抜剛健ナル者ヲ選抜シ他富ニ先ダチ実施スルニ至レリ

爆撃作戦ニ重要ナル地上対空器ハ「ラジオゾーン」ニ高射砲聯隊一個大隊一コトロール二個大隊（後ニ第十五方面軍部隊ヲ加ム）

一方ノ各飛行場ニハ押収機関砲隊不

三乃至四ヲ有シ戦斗機ノ爆撃ト相俟チテ相当ノ戦果ヲ収メルニ至レリ

第五節　船団掩護

一、船団ノ実施セル船団掩護ニ如シ

一、昭和十七年六月アッツ攻略及同年十二月機方面輸送掩護

二、昭和十八年南西「ペナン」ノ「ラバウル」間輸送掩護

三、昭和十八年一月ラバウル攻略時ノ掩護

昭和十七年ニ於ケル船団掩護ハ「アッツ」攻略時ヲ除キ大ナル支障ナカリシモ昭和十八年二至リテハ米空軍ニ324ノ装備セラルルニ至リ海軍船団ノ掩護ヲ為スニ多クノ困難ヲ来シ「トリー」ノ為船団ノ両舷ト船尾ニ船団掩護隊（所在訓練部隊ヲ充ル）ヲ配置シ「多数」ノ戦斗隊ノ部「ラバウル」ニ於ケル戦斗隊ノ全ヲ配置シ船舶輸送司令部

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ト軍密ナル連繫ノ下其ノ全ク期セン毛
航路ノ選定上海軍ト(護衛)ノ折衝アリテ十
分ナル成果ヲ挙ケ得ス且ツ第一陣行
程ノ一部ニ対スル高機ノ移乗投下協
議ヲ了シ仏領橋巡邏通過
地ニ立至リタリ

陸軍

1-301

1054-2

第六節　宮崎作戦

「トンガー」占領後第十五軍ハ第五十六師団ヲ以テ同地ヨリ東方「ミヤコ」高原地帯ヲ迂回シ軍農軍ノ退路ヲ扼絶ルノ要衝「ラエオ」線ニ占領セントスルノ時久米大佐ノ指揮スル第一挺進団ニ第七飛行団ヲ協力セシメ昭和十七年四月二十九日「トンガー」ヲ出発セシメタルモ同隊附近天候不良ノ為遂ニ海岸施設スルコトヲ得ズ

第七節　海軍トノ協同

本作戦取間ニ於テハ海軍トノ協同作戦ヲ施セズ但シ海軍ノ印度洋作戦及ビ印度呉地作戦ニ為基地トシテ「ミンダナオ」ノ便用シ得ル如ク

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan